

1 「本質的な問い」による単元構想について

- 本単元の「本質的な問い」に対して、児童は主体的に考え、自分なりの答えを出そうと取り組むことができた。特に、第3次では、「人を大切にする」をキーワードに自分にとっての平和な状態やそのために何ができるかを考えた。単元のゴールである平和宣言には、「思いやりの気持ちをもって相手に接する」、「自分の意見を押しつけるのではなく、相手の意見も理解するような話し合いをしていきたい」等の記述が多くあり、交流後、児童自身がこのような考えをもつことで平和な未来に繋がる動きを創ると答えを導き出すことができた。
- 児童の問いの連鎖を生かしていくことが「本質的な問い」につながるため、児童の問いとその答えを体に「見える化」しておくよかった。

2 単元で育成を目指す資質・能力について

- 事前・事後アンケートの分析 本単元の学習に関わって行った児童の事前・事後アンケート

	肯定的回答	
	事前	事後
戦争と平和の学習で必要な情報を集め、使うことができる。	88%	100%
戦争と平和の学習で学んだことや集めた情報を比べたり、分類したり、関連付けたりして、自分のことばで表し、伝えることができる	75%	85%
自分で課題を見付け、その解決に向けて粘り強く挑戦することができる。	81%	85%

【知識・技能】

- タブレット等を活用して、一人一人が多様な情報源から多くの情報を集めることができた。

【思考力・判断力・表現力】

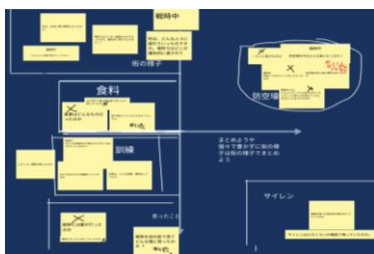
- 平和宣言を読み合った後の振り返りの記述内容では、第1次と第3次での児童の平和に対する考えがより広がっていることや、自分と相手の考え方が違うことに気付くことができた。
- 情報を個人や集団で比較・分類することで、集めた情報を整理し、考えを深めた。一方、情報が多すぎたことで情報を生かし切れなかった面があるので、「何のために」その情報が必要なのかを精査する力を付けていくとともに、インターネットだけでなく、図書資料、インタビュー等の情報をもっと活用させるべきであった。
- 振り返りの学習では、友だちの考えを聞き、類似点を見つけた発言はできたが、自分の考えを表現できない児童や深く考えをもつことができない児童がいた。国語科の学習と関連させながら、文章の書き方を指導するとともに、自分の言葉で表現させる活動を継続していく。

【主体性・積極性】

- 学習したことを基に、自分自身の生活を振り返り、自分にできる平和な行動を考えようとしていた。子ども達が考えた平和宣言で、自分と違うところや考えを受け入れ、相手の気持ちを考えた声掛けをしたり、町のために活動したりしたいなど生活に生かそうとする想いを表現することができた。

3 「デジタル機器」の活用

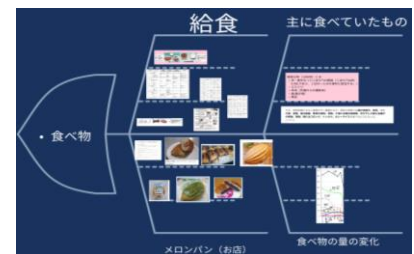
- 集めた情報を活用しやすくするため、チャートで仲間分けや分類・整理をさせた共有ノートを使用することで自分の考えだけでなく、友だちの考えも取り入れながら対話することができ、児童の思考の深める役割を担うことにつながった。



出前授業の質問の仲間分けチャート

お話を聞いて		
分かったこと	感じたこと	考えたこと
<ul style="list-style-type: none"> 訓練を毎日朝会で行っていた。 焼夷弾が屋根に落ちて床下まで届いたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 戦争をしなくても話し合えばたくさんの方が亡くなるようなことにならなかったのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 戦争は、人が傷つくのになんども続けているのがおかしい。 戦争は、たくさんの人を助けてあげたい。 戦争は、とても怖く誰も助けないと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 母ももった状態に食するのはとても大変。戦争は怖い。 食糧は戦争が少なくなれば足りると思う。 食糧は戦争が少なくなれば足りると思う。 食糧は戦争が少なくなれば足りると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 食べもの1つ1つを大事に食べたい。 戦争を減らしたい。 いっしょにみんなが努力しないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> 戦争は、人が傷つくのになんども続けているのがおかしい。 戦争は、たくさんの人を助けてあげたい。 戦争は、とても怖く誰も助けないと思う。

出前授業後のPMIチャート



グループで調べたことを分類・整理したチャート

- ロイロノートのシンキングツールの活用により、「比較する」「分類する」「関係付ける」等、思考を深める活動を設定したことで、児童が主体的に考えることができた。
- 調べたことを交流した後に思考ツールを使うなど、使うタイミングや種類などを吟味していきたい。
- タブレット端末を使いながら、「何を感じ、何を考えたか」等の互いの思いや考えを語らせる機会を意図的に設定する必要がある。